

オランダの教育事情について

前アムステルダム日本人学校 教諭

北海道上川郡東川町立東川第二小学校 教諭 岸 政 継

キーワード：現地教育事情，学校制度，教育の質の保持

1. はじめに

日本では、2006年6月、子どもたちの学力低下問題が叫ばれる中、「教育の質の保持」という点から教員免許法を含む教育三法が改正された。「ゆとり教育」の反省から、授業時数の見直し（特に主要教科時数の見直し）や小学校での総合的な学習の時間の縮減、5年生から週1時間の英語活動の導入など、ますます学力重視の色が濃くなっている。来年度から、いよいよ全面实施される新学習指導要領に向けて、教育課程の編成など各校で準備が進んでいる。

今回は、わたしが2007年の4月から3年間赴任したオランダアムステルダム日本人学校での現地教育事情研修を通して学んだオランダの教育事情について紹介していく。

2. オランダの「教育の三つの自由」

オランダでは、憲法23条の中で、「教育の三つの自由」が保障されている。この三つのことに、国は一切口を出さない。

設立の自由 200人の子どもを集められれば、自分たちで学校を作ってもよい。

理念の自由 宗教色を出しても、他のことで特徴を出しても良い。

教育方法の自由 教育内容，教材の裁量権が自由。

など、「教育の自由の伝統」がある。

また、オランダの学校全体の4分の3以上は私立の学校であるが、公立も私立も国の援助は、まったく一緒である。学区はなく、保護者と子は、自分の行きたい学校を自由に選ぶことができる。

義務教育は、5歳から16歳までの12年間である。16歳までの授業料は無料で、保護者はPTA会費のみの負担である。たいていの子は、4歳になった誕生日の日から学校へ行くことができる。中等教育のレベルでは、教科書とか教材を保護者が負担しなければならない。所得とは関係なく保護者には、児童手当が支給される。

3. 教育の多様性を最大限に認めたオランダの教育

公立学校の他に、宗教・主義学校があり、保護者や子はプロテスタント系，カトリック系，イスラム系，中立系などの選択ができるようになっている。モンテッソーリ教育，シュタイナー教育，ダルトン教育，フレイネ教育，イエナプラン教育など実に多様性に富んでいる。まさに、移民に対して寛容なオランダならではの教育制度になっている。

* 全体の学校の1割を占めるオールタナティブスクール

○ モンテッソーリ教育 美しい教材とグループ学習，異年齢混合クラス … 約240校

○ シュタイナー教育 頭，心，手のバランスのとれた発達を目指す。
一定期間1つの科目に集中した期間授業 … 約80校

- ダルトン教育 子どもの課題を教員と児童の間で決め、子どもの自立的計画で学習する。
子どもの自主性と責任の強調 …約200校
- フレイネ教育 戸外授業、子どもの自由作文と新聞作りなどによる個性の重視。
社会的尊重。子どもの自発的発見を起点とした授業 …約15校
- イエナプラン教育 異年齢混合学級、サークル形式を重視。学習形式（サークル対話、遊び、仕事、催し）をリズムカルに循環させる時間割 …約220校

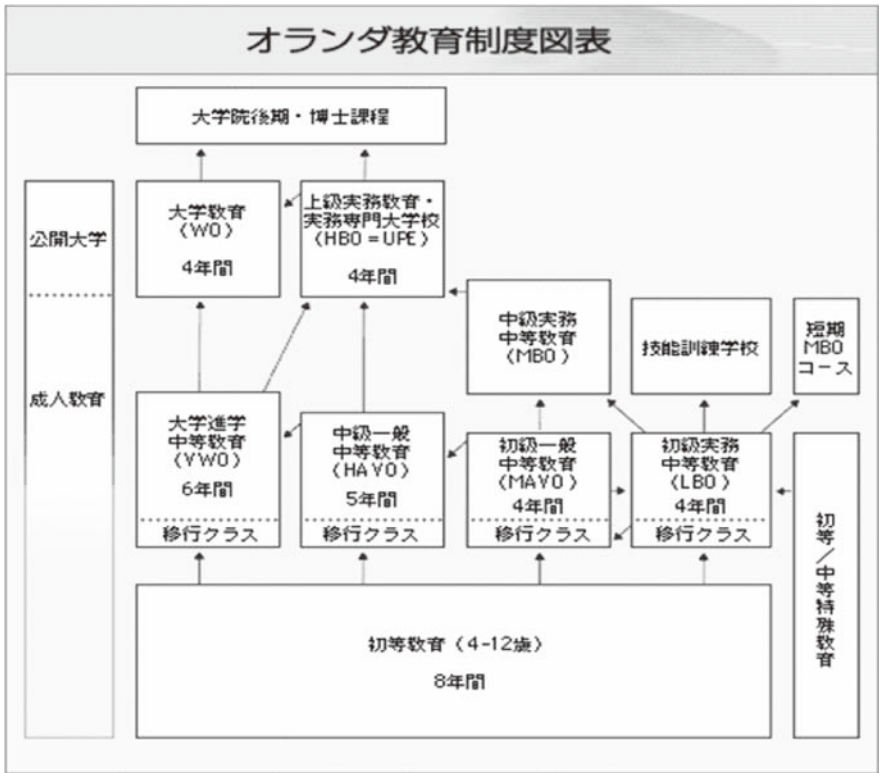
4. オランダの学校制度

オランダの子どもたちは、初等教育の終わる12歳（日本の小学6年生）にCITOテストという全国共通学力テストを受ける。2月のはじめの3日間に受け、3月にこの成績と普段の成績を加味して、保護者と子どもと教師の三者で今後の進路を決める。進む進路は、次の3つに分かれる。

12歳で、将来の進路を決めるのは早いような気がするが、中等学校へ入学後1、2年は、「ブリッジクラス」といって、改めて進路を決定する仕組みになっている。たいていの学校は、VWOとHAVOが一緒になった学校が多い。子どもの能力に応じて相互の学校を行き来することも可能である。

CITOテスト (Centraal Instituut Voor Toetsonwikkeling)

全国共通学力テスト（オランダ語、算数、学習スキル、一般知識〜ワールドオリエンテーション/地理・歴史、生物、物理、市民科、宗教運動の教科で学んだ知識の応用）このテストは、義務ではないが、60%以上の学校が参加している。



いずれの学校も、最終試験は、全国共通の卒業認定国家試験である。
オランダでは、卒業試験が上の学校への進学の資格になる。卒業試験に合格すれば、上の学校を自由に選択できる仕組みになっている。
学校間の横滑りや編入学など、その子に応じた教育が可能な学校制度が特徴といえる。

<初等教育・小学校、卒業後の進路コース>

☆ VWO (大学進学コース 6年間) 大学への進学率は、10%程度。

「アテネウム・atheneum」「ギムナジウム・gymnasium」と呼ばれ、大学へ進むための準備をすることが目的である。

☆ HAVO（高校一般教育＝高等職業専門学校へ 5年間）さらに

→ HBO（高等職業専門学校 4年間）小学校教師，看護師，技術者

☆ VMBO（中等職業準備学校 4年間）さらに

→ MBO（中等職業専門学校 4年間）警察官，准看護師，美容師の資格など

LBO（初等実務中等学校 4年間）

* オランダの落第制度

子どもそれぞれの発達程度の違いに対応して、「繰り返す」チャンスを与える制度。小学校の高学年になれば、20人いるクラスに、3、4人は、落第経験者がいるのは普通である。中等教育では、24人中6人くらいは、落第もあり。2年続けて落第の場合は、「お宅のお子さんは、本校の教育方針に合わないようなので、…」と転校を進められる。大学に入るのは比較的簡単なようだが、卒業するのはかなり難しいようである。

(1) 初等教育

オランダの初等教育は、4歳から12歳までの児童を対象としている。1985年に2年制の幼稚園と6年制の小学校が合体して「基礎学校」という名称の8年制の学校になる。この8年制初等教育においては、児童の感情、知性、創造性の発達と、十分な社会的、文化的、身体的能力を身に付けることに重点が置かれている。各初等学校は、政府が定めた規定に基づいて、ワークプランを立てる。学習・身体・社会的障がいのある児童には、特殊教育や特別ケアが提供される。

(2) 中等教育

12歳から子どもは、表にあるように3種類の教育を受けることができる。ほとんどの中等学校では、これらの教育の2種類以上を提供している。最初の2、3年間、学生は全員15教科からなる基礎形成教養課程で学ぶ。現在、オランダの17歳の95.7%は、全日制の中等学校の修了者か、または、在学中である。

(3) 職業教育

1996年に導入された成人・職業教育法は、包括的な成人および職業教育課程を提供する、地域教育訓練センターを設けた。職業教育課程は、学校での学習と実地研修からなっている。実地研修が最低20%から最高60%を占めるタイプと実地研修が課程の最低60%を占める2つのタイプがある。

(4) 高等教育

高等教育には、上級職業教育（HBO）と大学教育（WO）がある。2002年には、学士・修士資格制が導入された。18歳から27歳までの19.2%は全日制、0.8%は定時制で何らかの高等教育を受けている。オランダは、総合大学が9校、工科大学が3校、農業大学が1校あり、それぞれ専門研究機関をもっている。

5. 義務教育の評価

オランダの公立学校の評価は、年3回保護者に渡され、親のサインを必要とする。

○ 読み・書き・計算・オランダ語・歴史・地理・理科の学科の評定

→ 10段階（卓越した、非常によい、よい、十分充足している、充足している、だいたい充足している、充足していない、非常に充足していない、悪い、非常に悪い）

○ 表現（音楽、美術、体育、手工）や態度・敏捷性・集中・興味・整とん

→ 4段階（よい、充足、弱い、不十分）

○ 簡単なコメントもある。

6. 教育の質の保持

これだけ、多様な教育を実現したオランダの教育だが、教育の質の保持は、どのようになされているのだろうか。

☆ 学校の選択権を保護者に与えること

学校の選択は、権利と同時に義務になっている。保護者が教育実践の援助を行う機会も非常に多い。

☆ インスペクター制度（国の評価、点検機関）

各学校に目標を決めさせ、自己評価と自己改善のプロセスをどのように設定し、実施しているか監視する制度。

- ・「学校要覧」, 「学校計画書（4年ごとに更新）」の提出
- ・「子どもの一人一人の進捗記録」の提出

☆ 教員サポート機関の充実

- ・生徒指導, 学習指導などで現場の教師が困ったときに, 助言・支援する機関
- ・現場の教員と大学の研究者を結ぶサポート機関, 現場に根ざした実践的研究

7. おわりに

オランダの学校制度は、一人一人の子どもの個性を重視し、いずれは社会の中で自分はどのような役割（仕事）に就こうか、時間をかけて選択できる制度になっている。そのまま、日本で受け入れるわけにはいかないが、日本で最近言われている「キャリア教育」のあり方に示唆を与えてくれるような気がした。一方で、移民に寛容である国であるため、イスラム系の移民や東欧諸国からの移民の経済格差からくる教育の格差の問題も、取りざたされている。いずれにしても、国と国民が一体となって論議をしている風潮が、「歴史的に早くから市民社会を形成してきたオランダらしいな」と考えさせられた。